

人類に  
奉仕する  
ロータリー

# 帯広西ロータリークラブ 第2166回例会 2017.1.19

# 会報



■RI第2500地区テーマ■

ロータリーのあしたのために、  
積極的に行動しよう

■クラブ・テーマ■

ロータリーを分かち合おう

## 会長挨拶

江口文隆 副会長

皆さんこんにちは。本日も初めての点鐘、初めての挨拶ということで、多少緊張しております。人前で話すのが苦手なものですから、多少噛み噛みになると思いますけども、ロータリーの友情に免じてお許しを頂きたいと思っております。さて本年度の古田会長でございますが、ロータリーを分かち合おうということで、今年1年進んでおりますけれども、江口も会長の苦勞を少し分かち合ってみなさいということで、本日の出番となったのかなと思っておりますけれども、こういう試練を与えて頂いたことに感謝しております。今日は私のロータリー 20年の経験の中で感じたこと学んだこととお話して挨拶にさせて頂きたいと思っておりますけれども、まず人前で挨拶することに対して、やっぱり会長になるには、品格や挨拶のうまさが必要だと感じております。やっぱり品格のある会長がいることによって、クラブが1つになって、そして発展させていく原動力になるのではないのかな、そしてその素質というか品格が自分にないのを、このような挨拶の場をもらって感じております。ただ皆さんが西ロータリークラブに入った理由というのを自分に考えたところ、会長をやりたいと西ロータリーに入ったわけではございませんので、会長やガバナーを目指してロータリーに入った方もいらっしゃると思いますが、私はそうではないのですが、でもこのような立場にならないと、こういう経験もさせて頂けないのだと感じております。ロータリーで昔から言われているのはロータリーとは親睦だとか出席だとか奉仕だとか修練だとか、人それぞれ違いますけれど、それぞれに意味があるのかなと思っております。その経験の中で私が今感じているのは、西ロータリークラブ風にしているのは、越智さんが一生懸命に30周年の時にまとめてくれた「たいまつ宣言」がありますが、そのロータリーの信念といえますか、やっぱり自己の研鑽、自分の修練のために奉仕を实践するということが、大切ではないか、そして奉仕を实践、参加し出席することによって友情の輪を広めていく、そういう目的で



進めていければ幸いですと思っております。ロータリーが好きか嫌いかと聞かれると分かりませんが、ロータリーの20年での経験の中で色々な人と出会い経験させて頂きました。ロータリーの理念とかが好きか嫌いかわかりませんが、帯広西ロータリークラブが好きなんだなという事は感じております。私ももう少しで出席免除会員という会員の資格も得られるような立場になってきましたが、まだまだ自分も未熟な立場でございますので自己修練の為に、もうしばらく皆様といっしょに西ロータリークラブ活動をさせて頂いていただければと思っておりますということを申し上げて会長代理の挨拶とさせていただきます。

## 会務報告

谷脇正人 幹事

①帯広5RC・芽室RC・音更RC、7RC  
合同例会開催のご案内

日 時	2月7日(火)午後0時	会食
	午後0時30分~1時30分	例会
場 所	ホテル日航ノースランド帯広	
講 師	山分ネルソン祥興 様	

演題「元米山奨学生が見た、希望の花を咲かせる国、日本」

※尚、帯広南RC、2月6日(月)の繰下げ例会と致します。

帯広RC、2月8日(水)の繰上げ例会と致します。

帯広西RC、2月9日(木)の繰上げ例会と致します。

帯広北RC、2月10日(金)の繰上げ例会と致します。

②帯広北RC、移動例会開催のご案内

日 時	1月20日(金)午前11時
場 所	東洋農機(株)

③帯広東RC、移動例会開催のご案内

日 時	1月24日(火)午後0時30分
場 所	JA帯広かわにし別府事業所

④帯広西RC、夜間移動例会開催のご案内

日 時	1月26日(木)午後6時30分
場 所	グランデ(五番館ビル2F)
会 費	2,000円

⑤帯広南RC、移動例会開催のご案内

日 時	1月30日(月)午前11時
場 所	よつ葉乳業(株)十勝主管工場



会 長 古田 敦則	副会長 江口 文隆	会場監督理事 森 房明	発行：広報委員会
幹 事 谷脇 正人	副会長 山本 範之	プログラム委員理事 河合 敏	委員長 伊東 肇 (副)辻田 茂生



例会日/木曜日 12時30分~13時30分 例会場/北海道ホテル 帯広市西7条南19丁目1 (TEL 21-0001)  
創立/1972年2月24日 事務局/帯広経済センタービル4階 TEL 25-7347 (直通) FAX 28-6033

## 委員会報告

### ロータリー財団委員会 奥田頼昌 委員長

こんにちは。ロータリー財団から今年度表彰を受けた方のお名前と記念品が届いておりますのでお渡ししたいと思います。江口副会長よりお渡しいたします。



メジャードナー	大友広明会員
ポールハリスフェロー 6回目	奥 敏則会員
ポールハリスフェロー 4回目	笹井祐三会員
ポールハリスフェロー 3回目	奥田頼昌会員
ポールハリスフェロー 1回目	熊切宏樹会員

### 親睦活動委員会 小野辰夫 委員長

皆さんこんにちは。先週は新年交礼会に数多くの会員に参加をして頂き本当にありがとうございました。親睦活動委員会から皆様に、かなり前のご案内になりますが、2月23日に西ロータリークラ



ブ創立記念例会、夜間例会がございます。今年度は45周年ということもありまして、何とか100%例会を達成したいと今から思っております。是非ともその日の夜の都合を今から付けて頂きたいと思えます。会友の方も呼びする予定で神田さん、太田さんには出席の報告を頂いております。是非、会友の方も交えた中で盛り上がる例会を考えておりますので出席されるようお願いいたします。

### ニコニコ献金 親睦活動委員会 菊池俊博 会員

江口 文隆 副会長

本日、初めての点鐘、挨拶をさせて頂きます。

石原 英樹 エレクト

大事な時にいなくてすみません。今年もよろしく願いいたします。

田中 耕吾 職業奉仕委員長

本日は職業奉仕担当例会です。宜しくお願いします。

金尾 剛 会員

明けましておめでとうございます。ニコニコ年賀状です。今年も宜しくお願い致します。



## ◆プログラム

### 田中耕吾 職業奉仕委員長



皆様、あけましておめでとうございます。早速ですが今月は職業奉仕月間ということで、私の例会がやってまいりました。私はあまりしゃべるのが得意ではないので、やはりここは鈴木さんかなと思って、この後卓話をお願いしてありますので宜しくお願いします。とりあえずその前に、職業奉仕について真面目な文章を読みますので皆さん聞いてください。ロータリーは五大奉仕より成り立っておりますが、その第二部門である職業奉仕は事業及び専門職務の道德水準を高め品位ある業務はすべて尊重されるべきであるという認識を深めるあらゆる職業に携わる中で、奉仕を実践していくという目的をもつものである。会員の役割にはロータリーの理念に従って自分自身を律し事業を行うこと、そして自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てるためにクラブが開発したプロジェクトに応えることが含まれるとなっております。どうも抽象的な言葉で語られていて、職業奉仕はこういうものだとは非常に理解しづらいのですが、ジャームRI会長もおっしゃっておりますけれども、「私たちの職業は人々が、より良くより安全でより健康な生活をおくる手助けとなっています。正にこれが、ロータリーで私たちが実践することと同じです」と言っております。「ロータリーの活動によって世界の至る所で毎日より良くより安全でより健康な生活をおくっている人達があります。人類に奉仕するロータリーが無ければより良い生活を送ることが無かったかもしれません」とロータリーの活動の意義について語っております。今日は先ほども言いましたが鈴木亨会員に「職業を通しての職業奉仕」という題目で講和していただきます。皆さんも自分の職業を通してどの様な奉仕をされているかどのような貢献をしているのか今一度考えて頂きたいと思っております。それでは鈴木会員宜しくお願いします。

## 「職業を通しての職業奉仕」 鈴木 亨 会員



皆さんこんにちは。国際ロータリー第2500地区第6分区帯広西ロータリークラブ、ここにはですね、知る人ぞ知る「もくもくクラブ」という分科会がございます。目下のところは非公式で未公認なんですけどもメンバーは15名ほどありまして次々年度の会長を輩出するという一大勢力になっております。目下、日夜職業奉仕ではなくて納税奉仕をして国家に貢献するという素晴らしい分科会です。ただ「もくもくクラブ」には会長がいなくて、でも圧倒的にですね、体格的存在感から言います田中会員でして、今の格調高いお話からもやっぱり田中さんが会長だろうというふうに思います。会長みたいなもので、先日その田中さんから卓話をやれと命

じられまして今ここに立っております。今日は非常に幸いなこと古田会長がいらっしやらないということで、非常にほっとしております。最近ですね、彼は11月以来、顔を合わすたびに模範的国民になれと始終突っ込みを入れてくるんですね。今日はその張本人が居ないのでフリーに自分らしくお話ができるということで、まずは会長に感謝したいと思います。さて職業奉仕ですけれども、今、田中さんによる格調高い話をされちゃうと非常に話にくくなってしまったのですが、ロータリーでは自分の職業ですとか経営する企業の活動を通じて社会に奉仕せよと、今年度は人類に奉仕せよと、非常に格調高い方針がございますけれども、未だに私も理解できないのです。いくつかの理由の一つにちょっとなんか上から目線だなという気がしてならないんです。そういうことがあって職業奉仕についてなかなか理解ができておりませ

ん。でも私もロータリアンの端くれですから、自分なりにできることはやっていきたいなというふうに思っておりまして、今日は大上段から構えるのではなくて、身近なところで気軽に考えてみたいなと思っております。まず「自分を知る」ということだと思います。私は職業奉仕ということを考える時ですね、いつもどういうわけか、「瘋癲の寅さん」を条件反射的に思っています。全く職業奉仕と関係ない人なのですが、ご存知の通り、男はつらいよの瘋癲の寅さんというのはダメな男ですね、まず真面目に働こうという気持ちがまるでない、ロータリアンにはなれないでしょうし、ご本人もロータリアンになる気もないでしょうけれども、気の向くままに日本中をふわふわふわ歩いて、ちょっと綺麗な女性がいたりすると恋をしてしまう。妹のさくらに説教されたり、悲しい思いをさせたりと、困った存在ですけども、そのさくらだとか夫であるひろし、それからおいちゃん、おばちゃん、タコ社長といった人たちが一生懸命に働いて地道な家庭を築いていると言う事を誰よりも喜んでいるのは瘋癲の寅さんじゃないのだろうか。自分のようなやぐざな人間というのは表通りを歩いてはならないんだと言うことをしっかりと自分の考えを持っている。われわれはこのはちゃめちゃん寅さん見て不思議なことに共感を持って笑うし寅さんが大好きなんです。一方ではそのさくらですとか一生懸命働くそういう人達にももちろん共感するわけです。それはきっとですね、真面目に働くさくらと不真面目な寅さんとその両方が自分の中にあるんじゃないかと、自分の中にそういうことが存在することを感ずるから両方に共感するんじゃないかと思えます。これは言うまでもないことですが、人は真面目に生きようとも考えますし、一方では出来ることなら働きもしないで面白おかしくそういうふうにご馳走したい、そういう不屈な考え方も実は人の気持ちの中にあるんじゃないか、そういうことが自分の中で両面があるんでさくらに共感するし寅さんにも共感できるんじゃないかと思えます。ですから自分を知るということでお話しましたが、自分の中にさくらと寅さんの間を行ったり来たりしている、そういう自分であることを知ることが大事ではないかと思えます。我々は運よく社長だとか大事な立場になれたんですね、非常に運がよかったと思えます。ですからせめて大人としての道徳だとか見識だとか、そういったことから目をそらさないでさくらの路線ですね、こんな自分になりたいな、なれたらいいな、とそういうイメージを大切に成長続けることが必要じゃないかと思えます。そう考えてきますと、職業奉仕ということにもう一つ別な意味があるような気がします。我々は、これは本来なんでしょうけれども自分が職業をもって奉仕をするというふうにご馳走しておりますけれども、その逆に主語をちょっと変えて職業が奉仕をすると、職業奉仕ではなくてですね、職業が私に奉仕をしていると言うこともあるんじゃないだろうか、つまり職業の中で自分が成長するチャンス、逆に責任がありますし、使命も義務そういったことも職業を通じて与えてくれてんじゃないか、それを考えることも大事ではないかな、そんなことを考えながら話を進めたいと思えます。社長であったりあるいは大事な立場である皆さんのですけども、まず最初の奉仕の対象というのは、やはり社員とその家族ではないかと思えます。そう考えますと社長というのは仕事の中で人生の中で一丁あがりだという立場ではないかと思えます。何年たってもいくつなってもやはり成長し

なかったらならないというふうに思います。そうでなければ会社というのはどこかで行き止まりになってしまいますし、先がないことになってしまいますね。ですから仕事の拡大だとか利益を増やすということも大変重要ですけども、社長がちょっと成長することできつと何かが、それ以外の何かが発想として湧いてきて広まってくんじやないだろうか、そういうふうに思います。ちょっと具体的なことで話しますけれども、よく若い人の発想でと私なんかの年代になるとですね、そういうことをよく、つい言ってしまふんですけども、それはある意味丸投げじゃないかなというふうに思います。一方で、今時の若い連中はと文句をよくいってるんですね。ところがそういうなる若い人の発想でと言うのはうまく使い分けているのであって、これは間違いだろう、結局若い人の発想でというのは丸投げでなるんじゃないかなというふうに思います。年代ごとに発想というのはありますし、いくつでも別にそれ以外の年代を否定するというにはならないんじゃないかと思えます。還暦を迎えた方は還暦なりの発想がきつとあるのではと思います。それからもう一つ「それは無理だよ」とか「それは不可能だよ」と言ったりすることがあります。不可能という意味の英語はインポッシブルと言いますね、映画でミッションインポッシブルという非常に面白い映画がございましたが、このインポッシブルがちょっと面白いことですね、紙を用意しました。ImとPossibleを離してみます、possibleは「可能」です。Imは「不」でこれが一緒になって「不可能」でなります。しかしImのこの間に「r」とつけますと「I'm possible」になります。これは「私には出来る」という意味になります。ですから不可能だという前にIとmの間に「r」をつけるのと同じようにちょっと工夫をすることで、私が出来ると、私が挑戦をするというふうになろうかと思えます。つまり自分の問題になるということ。それともう一つ、よく「チャレンジ」をなさいますと言ったり聞いたりします。非常に口当たりの良い言葉なのでして、お正月の新聞に企業の社長さんの年頭訓示でもよくチャレンジ出ておりますが、これも英語なんです。実はチャレンジの中に重要な言葉が入っております。「challenge」ですね、チャレンジの頭の部分と後の部分の3文字づつを合わせると「change」になります。変わらなくてはならないということですね。チャレンジするというのは社員とかにも言いますが、チャレンジする前にチャレンジできるような会社であればそういう部隊にチェンジさせることが必要じゃないか、それが社長の仕事だろうと思えます。皆さんも不可能だとかチャレンジせよとかよく言うと思えますけれども、ちょっと分解してみるとこんな風になりますが、それは社員に言う前に、社長として大事な立場の皆さんがやることであるんだということをご馳走考えてみてもらいたいなと思えます。それから感動するという言葉があります。非常に良い言葉です。去年オリンピックを見て金メダルを取ると「感動を有難う」などと言いますが、ロータリアンは感動を有難うなんて言っている場合じゃないですね、「感動をありがとう」というのは、私の考えですけどもこれはせいぜい10代までですね、これからどうやっていこうかな、何をしたいこうかなというときですね、そういうことを魅せられて感じて、だから感動ありがとうこれはわかるんですけど、もう我々ですね、皆さんいい年をしてずっと年下のアスリートが頑張っていて感動をと、高校野球で北海高校の準優勝を見て感動あり

がとうと自分の孫みたいですね、そんなこと言ってる場合じゃないですよ。我々のその感動というのは感じて動くということだと思います。ですから感動することもあるでしょうけれども、ありがとうじゃなくてそこから動くということ、感じて動くことが必要じゃないかと思ひます。同じような言葉で「大変だ」といふことがあります。今年は大変な1年だとか、トランプさんになって大変だとか色んなことを言ひますけれども、これもやっぱり考え方をちょっと変えて「大変」といふのは大きく変わるということですね、そういう意味ですから、これも実は社長の仕事になってくる、大事な立場にいる皆さんの仕事になってくるかと思ひます。自己チェックが必要ということになってきますが、このことがすべて社員奉仕、職業奉仕ではないかと思ひます。次に受けている奉仕、ロータリアンは何か自分が奉仕しなければならないといひますけれども、受けている奉仕もあるのではないか、これを少し考えてみたいと思ひます。これは私なりの勝手な解釈ですが、知らずに受けている、あるいは知らずに奉仕をしている、そんな奉仕もあるんじゃないかと思ひます。謙虚に考えてみてそれを知ることが必要じゃないかと思ひます。まず先輩がいるということですね、考えてみれば私の場合でも非常に多くの先輩がいて多くのことを教へて頂きました。地元の同業の方、それから異業種の方ですね、三菱の関連の多くの仲間たち、たくさんの人たちがおりまして、先輩それぞれ独特な可愛がり方ってありまして、これがなかなか面白いんですね。これは実は先輩であるということも立派な職業奉仕だと思ひますし、私も多くの職業奉仕を受けてきたと思ひております。忘れられないことの1つですね、以前にもちょっと話したことがあるのですが、若林会員のお父さん、それから石原会員の叔父さんに私が40歳くらいの頃ですが、こんなことを言われたことがあります。「鈴木くんそろそろ雑巾がけをしなさい」と言われました。つまりその業界のためにですね、全体のことを考えて少しは汗を流せと、そういう意味だったと思ひますが、その言葉で、それから私が少し変わった感じがします。いろんな仕事させられました。でもそれを言われた時から私は決して「No」と言わないを自分に決めまして何でもやらせていただいたということでございます。とにかく非常に怖い先輩でして、その先輩がいつも見てるわけですから決して手を抜くことができないわけです。しかし結果として非常に勉強になった、大いに勉強になったということでもいい経験をさせてもらって今では本当にありがたいと感謝をしております。若林会員から想像するお父さん、石原会員から想像する叔父さんは、全く性格が違ひますから、相当キツかったんですけど、でも本当に今は感謝したいなと思ひております。それからの知らずに奉仕をしているということがあると思ひます。それは多分人柄ということになると思うんですけど、これもですね私には忘れられないエピソードがありまして、昔かの有名な長嶋茂雄選手あったことがございます。それは日本テレビで「こんばんは石原裕次郎です」といふ番組が始まったんです。そこに出入りしている人の関係で、そちらの家に下宿してありまして、頼み込んで録画の時にそこへ潜り込んでいきました。夜の10時か11時ぐらいからの録画でしたけれども、この時にですね、前は日本テレビの真ん中に中庭があったんですけど、そこにトイレがありました。私もそのトイレに行ったんです。そうするとその広いトイレの中で、後から入って来たのが長

嶋選手で、私と長嶋選手だけ2人きりになったんですね。如何に気の小さい私でもこういうチャンスは逃してはならないということで長嶋さんに声を掛けました。そのころは入団して4・5年の頃でスーパースターでいたわけです。その時たまたまその夜の試合でホームラン打ったんで、「ナイスホームラン」とかなんとかと言ったのですが、そのあと長嶋選手が身振り手振りで一球一球の解説をしてくれたんです。例の如く「ワ〜ッ」とか「バーっ」とかさっぱりわけがわからないですけど、その迫力は伝わってくるんですね。たしか4球目か5球目をホームランしたのですが、一球一球の解説をしてくれました。それ以来大ファンになりまして、学校に行かずに後樂園球場に通うという毎日になりましたけれども。長嶋選手の登場によって日本のプロ野球が確立されたと言われますけれども、もちろんファンに夢を与えるというばかりでなく、こういう一面があったから、それは正に人柄でありプロとしてのエンタテインメントとしての職業奉仕そのものじゃないのかなと思ひます。トイレから始まりまして、これからも、そうですね大の長嶋さんファンであります。十数年前に家を作ったんですけど、たまたまテレビを見ていたら、長嶋さんがセコムしてますか？と呼び掛けてくれたので即セコムにしました。最後に一つ「女性の力」といふことで話して閉めたいと思ひます。女性を男社会の中で戦力化することではないと思ひます。安倍総理大臣も厚労省の役人の方もいささか勘違いをしているのではないか、女性の方へ男性の世界で、男性と同じように働けといふのは間違えだと思ひます。最近、今のどこかの知事だとか何とか党の代表だとか、ちょっと勘違いしている女性が出てきておりますが、そういうことではなくて女性が女性の特質を発揮する、そういうことが大事なんじゃないか、それには男たるもの、やはりきちんそれが可能なように考えること、これが女性に対しての職業奉仕ではないかと思ひます。私が女性に対して非常に敬意をはらっていることは、こういう点です。女性は食事や飲んだ時に必ず割り勘にします。男はこれをしないんですね。4人でも5人でも集まった時に飲みながら食べながら、いつも誰が払うんだと、そういうことを考えながら時間を過ごしているんです。しかし女性はそんなことは考えないでとにかく割り勘としっかりしていますね。これが仕事の中でも、男っていうのは、何かこれは誰の責任だとか、これは俺の責任かとか、常にそういうことを考えているのではないかといふ場面に出会います。これはお酒を飲む時でも仕事の時でもある男性の嫌な部分です。女性は食事の時も飲む時も割り勘ですけど仕事の中でも自分の責任となると決して逃げるのがない、そういう女性の特質といふものを活かすという環境を創るといふことも職業奉仕のひとつではないかと思ひます。最後に一つ疑問がありまして、この女性、男の人と一緒になると割り勘をすっかり忘れてしまうんですね、それあたりまえでしょ！みたいに。対して見返りもないのに男性が払ってしまうというわけです。これは女性の見事な変身ぶりということになりますが、そういう女性と一緒に仕事をやっていくということがこれからの社会で本当に、女性を活かす、女性が輝いてくれるということだと思ひますし、それも職業奉仕の中に入れて考えてみる必要があると思ひます。時間になりましたのでこれで終わります。ありがとうございました。